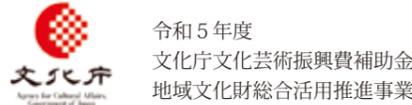


名古屋たちばな すてきなたてもの 南てらまち MAP

橋町は本町通り沿いやその周辺に黒漆喰塗りの商家が点在して残っています。「橋町」という名は尾張藩二代藩主徳川光友公が命名したと伝えられ、今も寺院や仏壇仏具店が集中する穴場スポットといわれています。2024年1月に実施したまちあるきワークショップをもとに、歴史的建造物をマップにしました。まちあるきにお役立てください。

編集：なごや歴史文化活用協議会
発行：名古屋まちづくり公社 名古屋都市センター
☎052-678-2220
協力：特定非営利活動法人なごや歴史まちづくりの会
作図：渡邊義孝 Ver.1.1 / 2024.03



創業450年、江戸時代に紋幕・陣幕・太鼓などを商っていた屋号「幕屋傳兵衛」がルーツ。1992年から家具小売業に転業。左の町家は屋根の高い平入り商家。



マクデンと町家

ガレージマーケットとして生まれ、クラフト・雑貨・キッチンカーなどが集まる。豊かな緑のある境内で毎月28日に開催。



妙善寺（七面堂）

日蓮宗の寺院で本堂が方形造りでてらべんに宝珠を載せる。空襲でぎりぎり焼け残った。光友公の腫物平癒の為七面女神像を祀る。



昭和14(1939)年築の元仏壇店の建物をリノベーションして洋菓子屋に再生。左の黒漆喰塗りの町家は2階の虫籠窓が特徴的。

ガトー・デュラ・メール・スリアンと黒漆喰の町家



切妻の町家の奥に片流れ屋根の建物がある。北側に高窓を設けるのは安定した光を取り入れて精密作業を行なう用途が多い。

三角屋根の加工場



切妻平入り2階建ての町家で、1階は全開口となる。両端には卯建が立ちあがり、棟の中心には2体の鍾馭さま。家具の展示場として活用されている。

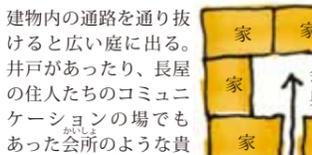
楠木アウトレット・ショールーム



通路屋根裏に注目！角材の垂木と割り竹木舞の取り合わせ

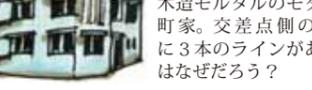


建物内の通路を通り抜けると広い庭に出る。井戸があったり、長屋の住人たちのコミュニケーションの場でもあった会所のような貴重な場所。



3本ラインの家
木造モルタルのモダンな町家。交差点側の「顔」に3本のラインがあるのはなぜだろう？

会所（または閑所）がある町家



東別院の門前に建てられた茶舗。建物は昭和3(1948)年築。大母屋と切妻が直角に交わる屋根が特徴。屋根も庇もせかい造りの塗り籠めとし、腰部はナマコ壁で仕上げる。下屋の熨斗瓦と漆喰が市松紋様となるのは愛知周辺の特徴。

荒木芳風園



隅切りされた2階建ての木造建築。装飾性はほとんど無いのにその姿はスマートで貫録がある。

木造の事務所



大正末期に東別院所縁の盲学校心光会館として建てられた洋館。陸屋根を軒蛇腹（コーニス）が引き締め、虫籠窓を思わせる2階窓は縦のラインで分節されている。アルデコあるいはセセッションの香りも。

RealStyle



毎月8,18,28日に開かれる東海地方最大級のマルシェ。親鸞上人の命日28日にちなんでスタート。食品、雑貨、テイクアウトなどのゾーンに分かれる。

【東別院暮らしの朝市】



本堂などが戦災で焼失した東別院だが、この東門は難を逃れた。江戸後期の作。門に直交する控え柱の上にも小さな切妻屋根を載せる「高麗門」の形式で、本柱に付く木鼻も立派。尾張名所図会にも記載されている。

東別院東門及び土塀

“切妻下見板の家”
なんのてらでもないシンプルな木造、でも凛とした気品がある。東別院関連の建物と伝えられる。東側は古渡城石垣の崖となる。

芝居好きのわしが橋座を認めたんじゃ【徳川光友】

真宗大谷派の寺院。本堂は江戸末期の作。手入れされた庭と東西の門を貫く径の雰囲気も素晴らしく、本堂の大母屋屋根矢切（両表面）の装飾は秀逸。宮大工棟梁八代目伊藤平左衛門守富の特徴を示す。

方杖のある元長屋

防火とともに格式を高めるデザインである卯建が両端に立ち上がる切妻平入りの町家。このエリアでは卯建付現存は唯一。下屋の熨斗瓦は市松に化粧され、本瓦葺きのむくり屋根と相まって美しい。

ヤマオカヤ

不老園
両端に防火補壁を備えた2階建ての町家。大壁化し屋根も葺き替えられているが歴史的建造物のひとつ。

右側的美濃佐商店（明治18=1885年）と左側の旧中村屋提灯店（大正4=1915年）ともに認定地域建造物資産。戦争中の昭和12(1937)年から道路拡幅のために解体・再建がなされ、切り縮められた中央部は3層に見える。瓦葺の庇はその時に付けられたもの。提灯店はファサードをモルタル塗りとし、看板建築のよう。三棟が連続し景観上も重要な建築のひとつ。



六浦本店の旧タバコ屋

1階コーナーのショーケース部に右読みで「タバコ」のタイル文字が残る。蛇の目棧瓦が陰翳を作り出している。

“兄弟蔵”

大切な商品や金品を保存するために防火性・耐久性を求めた土蔵はかつてはあちこちにあったが激減した。これは某個人住宅の蔵で黒漆喰に腰巻はナマコ壁、窓の観音扉は4段の掛子という豪華さ。棟の熨斗瓦は破格の16段積み。北側に小ぶりの蔵がもうひとつあり、まるで兄弟のように並び立つ。



大木戸の解説板

大木戸があった場所
城下町最南端の防御のため。これが南てらまちの役割でもあった。

阪野法衣店

妻壁にはかつての隣家の屋根の形が残っている。まちの記憶はこんな形で継承されている。

不老園

両端に防火補壁を備えた2階建ての町家。大壁化し屋根も葺き替えられているが歴史的建造物のひとつ。

ヤマオカヤ

防火とともに格式を高めるデザインである卯建が両端に立ち上がる切妻平入りの町家。このエリアでは卯建付現存は唯一。下屋の熨斗瓦は市松に化粧され、本瓦葺きのむくり屋根と相まって美しい。

